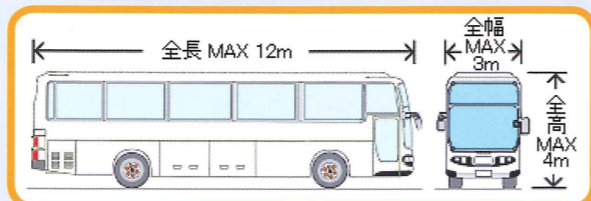


大型バスも当館駐車場の利用が可能になりました。

これまで、当館駐車場の入口が狭く、国道292号線から直接大型バスで乗り入れることが難しかった為、ご来館いただく皆様にはご不便をおかけしておりましたが、今シーズンは進入路の定期補修に併せて鋭角だった駐車場入口を大型バスが出入りできるように工夫しました。

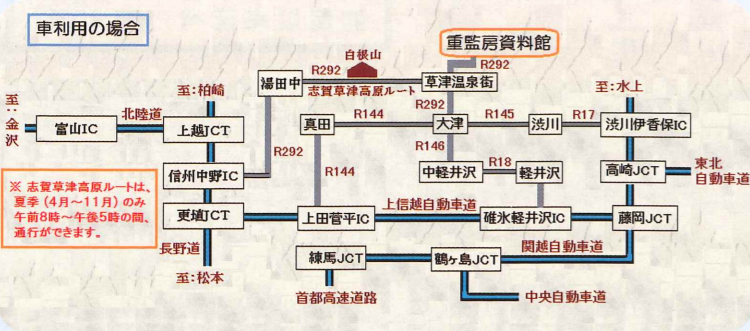


- ※1 利用可能なバスは、50～60人乗り程度の一般的な観光バスです。
- ※2 全高4mを越えるハイデッカー車は進入できませんのでご注意ください。

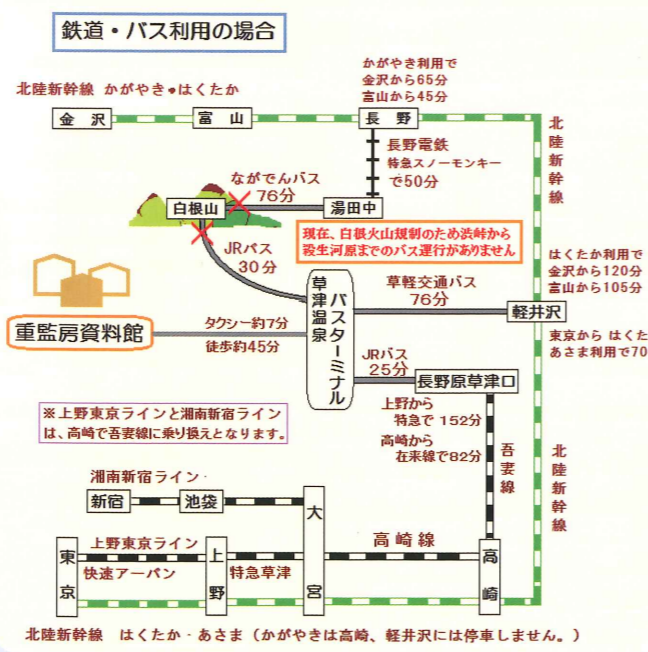
ご利用案内・アクセス

※個人見学は、4月26日から11月14日の期間となりますのでご注意ください。

区分	フルオープン期間 (4月26日～11月14日)	団体専用期間 (11月15日～4月25日)
受付対象	個人(開館時間内の見学自由) 団体及び学校等(ネット予約制)	団体及び学校等(ネット予約制) ※5名以上のグループ対象
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 (最終入館 午後3時30分)	午前10時00分～午後3時30分 (最終入館 午後3時00分)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合翌日) 国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日	



入館料…無料



重監房資料館だより「くりう」第10号【季刊】

発行日：平成29年(2017年)6月1日/企画・編集・発行：重監房資料館

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 TEL：0279-88-1550 URL：http://sjpm.hansen-dis.jp/

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国(厚生労働省)が設置した国立の資料館で入館は無料です。



重監房資料館だより

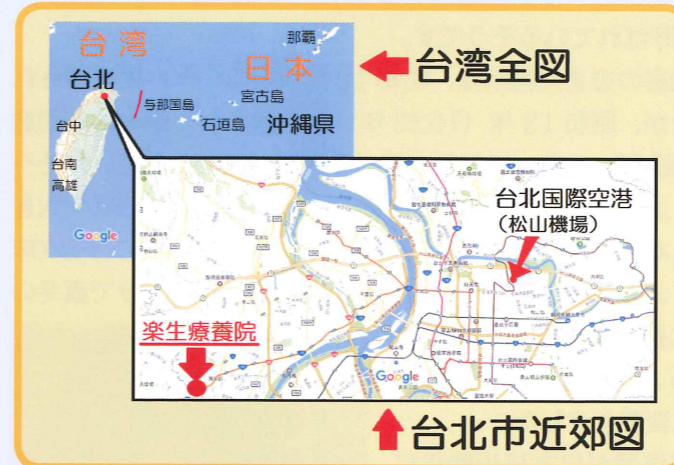


台湾楽生療養院を訪問して

—ハンセン病療養所の歴史的建造物—

重監房資料館学芸員 柏木 亨介

昨年11月8日、台湾のハンセン病療養所、楽生療養院を訪問し、所内に現存する戦前期の建物等の調査を行いました。楽生療養院は、日本が台湾を統治していた昭和5年(1930年)、台湾総督府が台湾人のハンセン病患者の隔離・収容を目的に設置した療養所です。場所は台北市の西部にあり、地下鉄(MRT)新莊線の迴龍駅の前にあります。地下鉄工事のため、施設の約半分は取り壊されて更地になっていますが、工事を免れた奥の山側の地区は昔の建物が多く残っていました。



【台湾楽生療養院の場所】

そこには戦前期に建てられた風呂場、炊事場、売店、居住舎がありますが、現在そのほとんどは使用されておらず、朽ちかけた木造のものは外側から鉄骨を渡して倒壊を防いでいました。

今でも使われている居住舎は、台湾の伝統的民家様式を模した三合院や、十坪住宅ほどの煉瓦造りの家で、新居住棟への転居を希望しない方々が暮らしていました。



【今も残る三合院の居住舎】

偶然出会った入所者に誘われて入った建物内には、その人が作ったという昔の事務本館や治療棟などの模型が展示されており、言葉はよく解らなくても作品をとおしてその人が歴史を大切にしていることが理解できました。

また、別の電動車椅子に乗った入所者は、ご親切に敷地内を案内してくれたうえ、日本語の話せる入所者を紹介してくださり、戦後中国人の医師や患者が入ってきて多様な言語を使わねばならず、コミュニケーションの問題や生活習慣の違いで苦労したことなどを伺い、歴史的建造物というモノ資料と入所者のお話しという語り資料で楽生療養院の様子を多角的に知ることができました。



【自作の古い建物模型を見せてくれた入所者】

大韓民国でハンセン病患者刑務所跡などを視察してきました。

重監房資料館主任学芸員 北原 誠

平成28年10月30日から11月1日にかけて大韓民国(以下「韓国」と言います。)の小鹿島(ソロクト)にあったハンセン病療養所「小鹿島慈恵医院」(現・韓国国立小鹿島病院)敷地内に残るハンセン病患者刑務所と監禁所跡を視察して来ました。

旧小鹿島慈恵医院は、韓国が日本の施政下だった明治40年(1907年)に朝鮮総督府が開設したハンセン病患者の隔離施設でした。

韓国でも朝鮮王朝より古い時代からハンセン病患者に対する偏見や差別が激しかったとのことで、今でも韓国の国民は「小鹿島」と聞くと「ああ、ハンセン人の島だな。」と言うそうです。ハンセン人とは、ハンセン病患者とその一族の総称で、回復者になっても変わらずそう呼ばれているそうです。



【小鹿島(ソロクト)の場所】

小鹿島の患者刑務所は、昭和10年(1935年)に設置されましたが、昭和13年(1938年)に設置された草津の特別病室(重監房)と違って裁判に基づく刑期が決められていたそうです。また、獄舎の建物はしっかりと煉瓦造りの家で大きな窓もあり、監房とトイレは別になっていました。オンドル(床暖房)まであったと言うことで、極寒の中を布団だけで真冬の寒さに耐えた重監房の収監者とのあまりにも違う処遇の良さに大変驚きました。



【小鹿島患者刑務所獄舎】

慈恵医院が日本統治時代に建てられたためか、小鹿島の旧事務本館の丸窓は、栗生楽泉園の青年会館の丸窓に酷似していました。小鹿島からソウルに移動する途中で麗水(ヨース)にある私立ハンセン病療養所「愛養園」の博物館と定着村を見学しました。韓国では社会復帰の一方法として軽快退所した人達が集団農場を経営して生計をたて、それを定着村と呼んでいるようですが、ハンセン人への偏見から完全に一般社会に受け入れられる事は難しいそうです。



【小鹿島旧事務本館の丸窓】



【栗生楽泉園青年会館の丸窓】

最終日は、ソウル市内の西大門刑務所歴史館を訪ねました。ここは明治41年(1908年)に「京城監獄」として造られた刑務所でした。戦後は韓国政府の管理下に置かれ、末期は民主化運動弾圧のために利用されるなど、昭和62年(1987年)まで使用されていました。故・金大中元韓国大統領も民主活動家だった頃に投獄された場所です。



【石垣の上にポツンと建つハンセン病舎】

ハンセン病舎は、西端の石垣の上にはありましたが、内装・外観ともに特段変わった所はなくハンセン人と一般受刑者を区別するために使われたようです。

門衛所跡の試掘調査を行いました。

今年の3月22日から28日にかけて、栗生楽泉園の正門近くにある門衛所跡の試掘調査を行いました。門衛所は、かつて特別病室(重監房)の監守を兼ねていたと言われる所です。

門衛所は昭和22年(1947年)に厚生大臣から重監房の使用禁止命令が発出されてからもしばらく残っており、建物が廃止されたのは昭和58年(1983年)と記録されています。

当時の栗生楽泉園の正門は、現在の位置よりも数m園内寄りがありました。丁度重監房跡地の入口があるあたりになります。



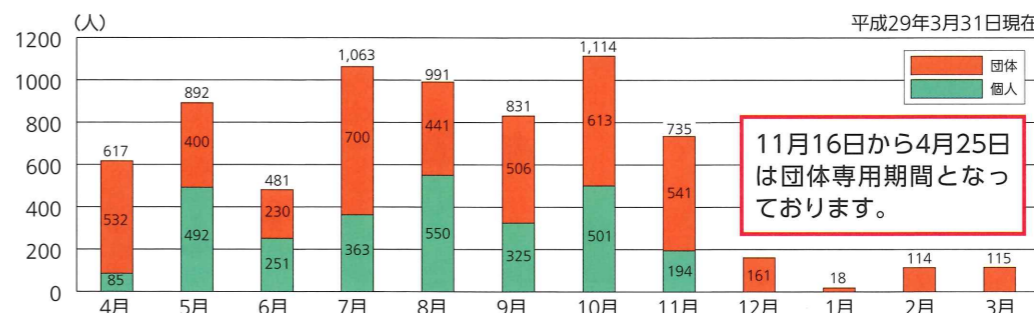
【雪深い中での試掘調査】



【門衛所の主な出土遺物】

今回の調査は、門衛所の痕跡の有無を確認して第2次発掘調査に向けた基礎資料を得ることが目的でしたが、試掘の結果ガラス瓶や湯呑茶碗の欠片などが出土しました。これらの遺物は、門衛所の解体時に遺された物と思われますが、調査した試掘坑は全体の5%程度ですので、今後出土品を慎重に分析するなどして、第2次発掘調査の場所や方法、実施時期について最も適切に行えるよう検討を進めてまいります。

【平成28年度 来館者統計】



平成28年度入館者数	
延べ	7,132人
一日平均	24.6人
開館以来延べ	21,550人
ホームページアクセス数	
平成28年度	43,278回
開館以来延べ	101,898回

お客様の声(来館者アンケートより抜粋)

- ◎子供の頃身延町の患者棟を見たことがあり怖いと思った。大人になって病気への偏見を恥ずかしいと思っている。(埼玉県、58歳・主婦、女性)
- ◎3回目の訪問になるが、来るたびに「人権とは何か!」「人権を無視される人がいて良いのか!」と思わされる。(新潟県、35歳・事務職、男性)
- ◎ここに来て「重監房」と言う刑務所の存在を知った。病が「犯罪」や「罪」として見做されていたことに驚いた。寒い中を来たので重監房の辛さが身に染みてわかったような気がする。(神奈川県、21歳・大学生、男性)
- ◎今後未来に向け、多くの人達が差別なく憲法に保障された生き方ができるように、国民一人一人も学び、努力していかなくてはならないと思った。(東京都、57歳・主婦、女性)
- ◎実寸大再現展示が鬼気迫る感じで入れなかった。(東京都、36歳・会社員、男性)
- ◎もし自分が当時いたら、どのような思いを抱くか不安だ。現代を生き医学を学ぶ者として差別の思いを抱いてはいけなかった。(福島県、19歳・医学生、男性)

【この他にも、多くの皆様からご感想をお寄せ頂きました。有難うございました。】